

人と農業

修明高等学校 1年 もんま ひかる
門馬 光

陸奥国棚倉藩一三代城主・松平周防守康圭公は、藩政改革であることを成し遂げました

それは農業の改革です。こんにゃくや梨の栽培、馬の放牧などを奨励し、農業に力を入れたそうです。そのことがあって、現在の歴史深い棚倉町があるのです。私は幼いころから自然豊かなこの棚倉町で育ちました。生き物が大好きで、昆虫はもちろんのこと動物に対する興味がとても強い子供だったそうです。

中学校三年生のとき、進路をどうするか考え、知人に相談しました。その方は、農業に携わる高校に進学し、毎日のように学校での話をしてくれました。そのような中で、私は自分の進むべき道が農業にあるのではないかと考えるようになりました。

四月、私は修明高校の農業科である生産流通科に入学しました。授業は座学といって、農業の基本的なことを知識として学ぶものと実習に分かれています。座学では主に作物の分類の仕方や病気・害虫の駆除方法などを学びます。実習では、座学で学んだことを生かして野作物を育てたり、牛や鶏などの飼育動物の世話をしたりします。まさに私のやりたいことと同じでした。現在、私のクラスは四つの班に分かれて、野菜・作物・畜産・草花を一週間に一つずつ学んでいます。野菜や作物は稲をはじめとする農作物を育て、畜産では鶏や牛の世話をし、草花ではカーネーションの花を中心に育てています。そこで私は学んだことが二つあります。

一つ目は、農業の大切さです。先日、授業で先生がおっしゃった、とても興味深いことがありました。

「農業の歴史は、日本は世界でも古いほうなんだよ。」

歴史的に見た場合、世界に比べると日本の歴史は浅い方だと認識していたのに、農業では古いということです。人は食べなければ生きていけません。そのために、我々の先祖はあらゆる工夫をして作物を栽培してきたのです

我が棚倉町の藩主も、冒頭で話したように農業の大切さがわかっていたからこそなのです

私はそんな当たり前のことを授業で聞くまで強く意識したことはありませんでした。幼いころから、当たり前のように用意されて、当たり前のように食べてきた料理が、元をたどれば「農業」で大切に育てられてきた農作物や生き物だったことを私は忘れていたのかも知れません。学ぶうちに、自分自身が農業について根本的なことを理解していないということに驚愕としました。教えてもらって初めて分かることが多く、先生方がいなければ、私は農業についてまったく理解しないまま三年間を過ごしていたかもしれません。そのような大切な農業なのですが、近年の日本では農業は衰退しつつあるといいます。その理由は、後継者の不足や農場者の高齢化などです

機械化は進んできてはいるものの、全国的に見てみると、まだ追いついていないのが現状です。このことは、将来私たちが考えていかなければならない課題だと思いました。

二つ目は、人との関わりです。このことを強く意識したのは、販売実習のときでした。

自分たちが育てた花や収穫した卵などの農作物を、平日にも関わらず、たくさんの方々が買いに来てくださったり、地元のお店に修明産の卵が並んでいたりするのを見ると、親になったような気持ちでうれしくなりました。

そして、「とてもおいしいよ、本当にきれいだね。」などと声かけをして頂くことでやる気にもつながりました。私たちは、地域の人に支えてもらっていると日々の日常で実感しています。

農業の大切さと人との関わり。このことは農業を学んで得たものです。将来、社会に出たときに生活する中で、人との関わりを大切にし、私は周りの人たちに支えてもらいながら生活しているのだと意識すると同時に次は自分が社会に貢献できる人間になりたいです。農業について歴史深いここ棚倉町で、私は高校三年間で多くのことを学び、将来に役立てていきたいと
思います。